

まるりん通信



平成 28 年 8 月発行

公益財団法人 屋久島環境文化財団 TEL42-2911 FAX49-1018

第 3 回 屋久島研究講座 日本蘚苔類学会第 45 回屋久島大会

日 時：8 月 29 日（月）19:00～20:30

場 所：屋久島町安房総合センター

内 容：記念鼎談『屋久島のコケの魅力とその展開』

講 師：秋山弘之（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

古木達郎（千葉県立中央博物館 主席研究員）

山口富美夫（広島大学理学部 教授）

※一般の方の予約は必要ありません。ガイドの方で受講証明書の必要な方は、必ず前日までに予約をして下さい。

【お問い合わせ】環境文化村センター TEL 42-2900

報 告

屋久島環境文化村センター開館 20 周年記念イベント

— 映画上映会 — 7 月 23 日（土）・24 日（日）

『ミッション・インポッシブル』、『ベイマックス』の上映会を行ないました。

— むらせん祭り — 7 月 24 日（日）

たくさんの方が来館し、粘土キャンドル作り、おもしろ自然工作、オリジナルうちわ作りを楽しみました。また、まるりん撮影会では、撮った写真をそのままバッジにし、記念としてお持ち帰りいただきました。

財団ボランティア及び高校生クラブ「ぼんだま」の皆さまのサポートで、子どもから大人まで楽しく過ごすことができました。本当にありがとうございました。



<募集中！>

第 6 回自然・文化体験セミナー 屋久島満喫アクティブツアー

2 泊 3 日まるごとアウトドア体験！屋久島の自然を全力で楽しもう！！

日 時：9 月 23 日（金）～25 日（日）

内 容：トレッキング、手作りいかだ川上り & 川下り、アウトドアボルダリング、星空観察 等

参加費：20,000 円（2 泊 5 食含む）

対 象：18 歳～30 歳（高校生不可）

定 員：20 名

お問い合わせ・お申し込み：研修センター

TEL46-2900 担当 山口

☆屋久島里めぐり☆

地元の語り部と巡る屋久島里めぐりを体験しませんか。

ホームページ (<http://www.yakushima.jp>)



会員募集中！屋久島ファンクラブ

屋久島環境文化財団では、世界自然遺産の島屋久島のすばらしい自然を未来へ引き継ぐための様々な活動を支援いただくために「屋久島ファンクラブ」の会員を募集しています。一人でも多くの皆様のご入会を、こころよりお待ちしております。

☆年会費 2 千円（複数年可）、各種特典があります。詳しくは、環境文化村センターまでお問合せください。



～インストラクター便り～ 「ハゼノキのそっくりさん」

インストラクター 今村桜子

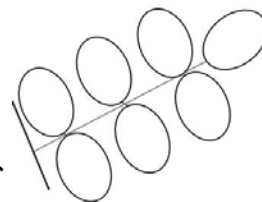
ある日、私の腕に小さな水ぶくれが現れました。その日はすぐ治るだろうと思っていましたが、数日後それが大きくなりとてもかゆみに襲われました。どうやらうっかりハゼノキ（右下図、ウルシの仲間）に触れてしまったようです。これからは気を付けよう！とハゼノキについて調べてみると間違えやすい植物があるようです。身近な植物なので今回ご紹介したいと思います。

似た植物にサンショウの仲間のカラスザンショウや山菜のタラの芽で知られるタラノキがあります。どちらも葉（複葉）が枝先に集まってついている所がハゼノキと似ています。しかし、幹や枝先をよく見てみると、これらにはハゼノキにはないトゲがあるので見分けることができます。

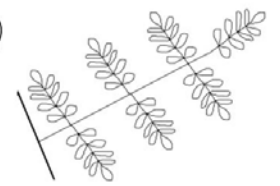


「じゃあこのトゲをもつ2種はどこで見分けるの？」と思われた方、1番簡単なのはにおいです。カラスザンショウは葉をもむと強烈なおいがしますが、タラノキはしません。もう1つ挙げるなら葉の形。カラスザンショウ（&ハゼノキ）は1回、タラノキは2回羽状複葉です。

生き物を知って何になるんだ？と思われることがあるかもしれませんが、種の見分け方などの知識があることで、自分の身を守ることができる場合もあります。野外に出ることも多いこの季節、図鑑を片手に身近な生き物から調べてみてはいかがでしょうか。



1回羽状複葉



2回羽状複葉

財団活動報告

7月セミナー「夏を感じるエコツアー」

楽しみにされていた方には申し訳ありませんでしたが、天候により中止とさせていただきます。梅雨も明け、これからが夏本番となります。キラキラと涼しい海の中だけでなく、潮の引いた磯も見ると驚きの生き物たちに巡りあえるかもしれません。

色んな海辺を観察してみてくださいね。



子どもエコ隊

7月18日、第2回屋久島子どもエコ隊を実施しました。この日は海の日になんで春田浜で海の生き物観察を行いました。

子どもたちもすっかり打ち解け、協力して海の生き物を捕まえることができました。

☆お知らせ☆

8月の文化村センター・文化研修センターは
全日開館します。

～ 屋久島を想う ～

No. 1 1 2



よしくに さんぼう
吉國 三寶

「島の濃緑な色を眺めて、富岡は爽快な気がした。少しも離島に流れてきた感じはなく、かえって身も心も洗われたような樹林の招きを感じるのだ。富岡は甲板に出て、寒い海の風に吹かれながら、今日の前遙かに立っている島を、飽きもせず眺めていた。」林芙美子の小説「浮雲」の一節です。戦中戦後の時代に翻弄された主人公二人が、終の棲家を求めて安房沖にたどり着いた時の描写です。先日この縁^{ゆかり}の名作をやっと手に入れ開いてみました。街の佇^{たたず}まいは変わっていましたが、この数行だけは、この春高速船の窓越しに味わった感覚と見事に重なりました。島民となりまもなく半年、財団で島全体をフィールドに仕事ができることに感謝しています。小説は「消えるともなく消えていく浮雲である」と淋しく結びますが、私は、この屋久島に抱かれながら暮らしていけることを心から嬉しく思います。

訂正

まるりん通信7月発行の「第181号」は、「第193号」の誤りでした。